

角膜ヘルペス

角膜ヘルペスは単純ヘルペスウイルス（HSV）が角膜に感染して発症する病気です。治療が不十分だったり重症化したりすると、視力の改善が難しくなることも**ある**。「再発を繰り返すので、その都度しっかりとした治療をすることが再発と視力低下の予防につながります」

HSVは多くが幼児期に感染し、大半が無症状。自覚症状は、目がゴロゴロして充血したり、かすんだりする。なかなか治らず、視力低下を訴えて受診する患者が多い。

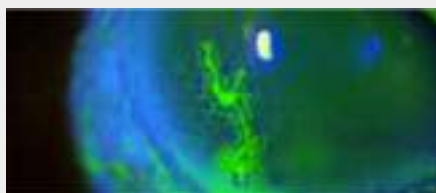
角膜ヘルペスには主に二つの病型がある。角膜の表面に枝状の潰瘍ができる**上皮型**と、中まで炎症が進み角膜に濁りや**むくみ**が生じる**実質型**だ。

上皮型は感染した角膜の細胞が樹木の枝のように見え（樹枝状角膜炎）、**実質型**は角膜が腫れて濁っています（円板状角膜炎）



(高村悦子医師への取材を基に作成)

上皮型：



実質型：



HSVは多くが幼児期に感染し、大半が無症状。自覚症状は、目がゴロゴロして充血したり、かすんだりする。なかなか治らず、視力低下を訴えて受診する患者が多い。

角膜ヘルペスには主に二つの病型がある。角膜の表面に枝状の潰瘍ができる上皮型と、中まで炎症が進み角膜に濁りやむくみが生じる実質型だ。

上皮型は感染した角膜の細胞が樹木の枝のように見え（樹枝状角膜炎）、実質型は角膜が腫れて濁っています（円板状角膜炎）

樹枝状角膜炎の治療は、抗ウイルス薬の眼軟こうを1日5回塗布する。下まぶたを引いて軟こうを付け、目を閉じて全体に広がるまで少し待つ。これを2週間継続する。「少し大変ですが、感染症の治療は最初が肝心です。しっかりと治療をすることで再発を減らせます」。円板状角膜炎では、ステロイドの点眼薬も併用する。この場合、治療期間は長引き、月単位で経過を診る。

ヘルペスウイルスは、症状が治まっても神経が集まる神経節という部分に潜み、再発を繰り返す。「角膜ヘルペスは同じ側の目に再発します。

参考：時事メディカル

<https://medical.jiji.com/topics/2213>

参考：藤田眼科

<https://fujitaec.or.jp/ophthalmology/herpes/>

角膜の濁りがひどく、視力がかなり低下しているような場合には、角膜移植が必要になります。単純ヘルペスによる目の病気に関しては、治療法を誤るとかえって病状が悪化することがありますので、必ず眼科医の診察を受けて下さい。

参考：京都府立医科大学眼科

https://ganka.gr.jp/sickness_p-virus.htm